

# 「人生はチームワーク」

## —野球が私にくれたもの

元横浜大洋ホエールズ投手

公益社団法人鎌倉市観光協会 専務理事 遠藤一彦 氏



平成26年

# 専門店秋の大会

2014年10月24日、東京・明治記念館で、平成26年「専門店秋の大会」を開催しました。講師にお招きしたのは、元横浜大洋ホエールズのエースピッチャー遠藤一彦氏。現在は鎌倉市観光協会の専務理事として、地元鎌倉の商工観光の発展に尽力されています。自身のプロ野球人生を振り返り、懐かしいエピソードを交えて熱くお話いただきました。

長嶋茂雄にあこがれて  
野球との出会い

福島県の片田舎、田んぼや畑の真っただ中で育ちました。テレビはなかったので、野球がどういうものかよく分からぬまま、ただただ長嶋茂雄さんに憧れる少年時代を送っていました。今ならば各地区に少年野球がありますが、当時はそういう環境ではありません。小学生の時はいつも近く所でボールを蹴つて遊びまわっていました。

中学生になり念願の野球部に入部。ここで初めて、チームワークというものを教えてもらいました。普段の練習は顧問の先生に指導していただき、雨が降つて練習ができない日などには試合のルールやスコアブックのつけ方などを教頭先生から教わりました。

1、2年のときは球拾いに明け暮れる毎日です。その頃からすっかり野球に夢中になつていきました。土曜日だけは4時半に練習が終わるんですね。

テレビの前に正座して「巨人の星」が始まるのをわくわくしながら待つてゐる。そんな野球漬けの毎日を送っていました。

誰かがエラーリーをしても、みんなでそれをカバーできるのが野球の面白さです。二人の姉は国体やインターハイにも出場する陸上の選手でしたので、父は私にも陸上を勧めていました。しかし、私はチームワークを求められるようなスポーツがやりたかった。仲間といつしょにするスポーツが好きだったのです。

3年生になると、野球に詳しい先生が赴任してきたので、バットの振り方、ボールの投げ方、連携プレーなどの基本をしつかり教えてもらいました。

しかし、村には中学校が2校しかないので練習試合の相手がいません。土曜日になると、早起きチームと称する大人の野球チームと朝の6時から試合をして、練習の成果を確かめ

ていました。そうやって、だんだん勝つ喜びを覚えていき、地区の大会で優勝。県大会まで進むことができました。学校始まって以来のことです。

その年（1969年）の夏、甲子園（第51回全国高等学校野球選手権大会）の決勝戦は、青森代表・三沢高校の太田幸司投手と愛媛代表・松山商業の井上明投手が投げ合い、延長15回、実に4時間以上という、も

高校の太田幸司投手と愛媛代表・松山商業の井上明投手が投げ合い、延長15回、実に4時間以上という、ものすごい試合となりました。夏休みの宿題も手につかず、テレビにくぎ付けになつたのを覚えています。自分も甲子園球場で野球をしたい。そんな強い気持ちがふつぶつと湧いてきました。

野球推薦で学法石川高校へ  
甲子園を目指すも夢かなわず

中学3年の時、たまたま地区大会を見に来ていた学法石川高校の野球部の監督からお誘いがありました。当然投手としてだと思っていましたが、脚力を認められて野手としてで

す。確かに小さい頃から足の速さには自信がありました。後々聞いた話ですが、県の陸上関係者が福島から将来のオリンピック選手が出るのではないかと注目されていたのだそうです。しかし、私は陸上にはまったく興味がなく、野球をやるという信念だけは変わりませんでした。もし学法石川高校の監督に見つけてもらえば、もし地元の高校に進んでいたら、私の野球人生はなかつたでしょう。

決意を新たにしました。夕暮れ時のスコアボードがぼんやり見えたことを今も覚えています。

毎年12月の半ば、終業式が終わつてから正月まではお寺で厳しい冬の合宿が待っています。冬の福島は非常に寒いんです。朝早くから掃除をして座禅を組み、昼間は野球の特訓です。おかげで精神的な強さが養わされました。

頃東海大学野球部からお誘いをいただき、工学部に在籍しながら大学野球に進むことに。低迷している野球部を何としても強くしたいとのことでした。それまで大学野球は1リーグしかなく、私が入ったのは東海大学が中心となつて首都リーグを立ち上げた年でした。

首都リーグのメイン球場は神宮第一球場から駒沢球場に、4年の時に二球場へと移動しました。川崎は横浜大洋ホエールズが本拠地にしていました球場です。当時、大東文化大学の石井邦彦というアンダースローの投手が注目されていて、彼を見に大勢のスカウトたちが集まっています。

東海大学野球部で活躍  
原辰徳のおかげで大注目

高校卒業時、日立製作所から社会人野球の誘いを受けました。野球は好きでしたが私には建築家になりたいという夢があり、大学受験に備えて猛勉強の日々だったのです。そんな

ドラフトで3位指名  
悩んだ末、プロの道へ

り上げ方が一変しました。スポーツ紙が首都リーグのことをどんどん取り

4年生になつた春、あの原辰徳が東海大学に入学します。同時に彼の親父さんが監督になり、マスコミの取り上げ方が一変しました。スポーツ紙が首都リーグのことをどんどん取り上げ、プロのスカウトも球場に足を運んでくれるようになりました。

午前中は授業を受けて、午後は野球の練習です。1年生から背番号24でベンチに入り、投手として活躍できました。リーグ戦では5回優勝。3年の時には選手権で日本一になつています。そうした活躍も3年生までは新聞に取り上げられることもなく、唯一『東京タイムズ』という地方紙が大学のリーグ戦に関する記事を取り上げるくらいでした。

首都リーグでの最後の試合相手は法政大学、投手は江川卓。江川対原という注目の対戦にお客さんが大熱

詰めかけました。原が江川からホームランを打ち、試合は盛り上がりましたが、結局東海大学は法政に負けています。

試合後、記者さんたちから「プロに行く気はないですか」と質問され、初めてプロも選択肢の一つかもしれないという気持ちになりました。しかし、自分の力は自分が一番よく知っています。今は高校生でも150キロは出す時代です。180センチ、63キログラムという、もやしのような体格では140キロも出ません。得意なのはカーブ、それも江川のようないカーブではなく、ドローンと落ちいく球です。

3位とはいって、横浜大洋ホエールズからたまたま指名を受け、さて困りました。母親は安全な道を選んだほうが多いと言います。とはいって、今まで野球しかやってこなかったのは事実です。悩んだ結果、プロ野球選手の道を選びました。

## 江川に投げ勝つて得た自信 アキレス腱断裂の逆境に打ち勝つ

ても関根潤三さんです。負けても、負けても、私に投げさせてくれました。15年のプロ生活を振り返ると、投手としての自信をつけさせてくれた恩人だと感謝しています。

1982年、27歳の時、シーズン最後の試合で江川と投げ合い、初めて勝利投手となりました。江川の2年連続20勝、最多勝がかかつた試合でした。

私にとって江川は特別な存在です。私の2倍はある体格で、投手としての才能もすば抜けていました。大学のリーグは別でしたが、少しでも近づきたいと思っていた相手です。私にできるのはコントロールしかないと、ひたすら努力する日々でした。

今のように筋力トレーニングなんて考えもしなかった時代です。ひたすら走り、投げこんで、力をつけていくしかありません。私のアキレス腱には次第に疲労がたまっていき、鈍い痛みを感じるようになっていました。横浜スタジアムの硬い人工芝も一因だったのでしょうか。足首に痛み止めの注射を頻繁に打たなくてはいけない状態でした。

1987年、10月3日。32歳の時でした。なぜかその日に限って足の痛みが最も影響を受けた方は何といつ

みがなく、球がよく走っていたのを覚えています。4回裏を投げ終わり、次の回の先頭打者として打席に立ちました。ピッチャーは西本聖。なんでもないセカンドゴロを打つたら、名手・篠塚和典がめずらしくそれをエラーしたんですね。私は1塁に残り、次の打者・高木豊がレフト線にヒット。レフトを守っていたのが、怪我から復帰したばかりの吉村禎章でした。1

## 野球解説者、コーチの道 鎌倉に住んで観光協会に

1992年、球団は翌年から横浜ベイスターズと名前を変えることが決まり、大洋ホエールズ最後の試合が私の引退試合となりました。

引退後はTBSで野球解説者に。やったことのないドラマに出演したり、その後横浜ベイスターズのコーチになるまでは結構大変でした。女房は苦労したと思います。

少し余裕ができるころ、女房の希望で鎌倉に移り住むことになりました。こうして鎌倉市にご縁ができ、観光協会からスカウトされたのです。

「何もしなくていいから」「座っているだけでいいから」「解説の仕事や野球塾の仕事があつたら行つてもいいから」などと言われてはいましたが、実際は座つていればいいものではありませんでした。

観光協会の仕事は、イベントや事業を行うたびに、企業やお店を回つて協賛をお願いしなくてはいけません。あまり何度もお願いに行くので、私の顔を見ると、お金はないよと先

ただきました。

横浜大洋ホエールズの監督として私が最も影響を受けた方は何といつ

1987年、10月3日。32歳の時でした。なぜかその日に限って足の痛

みがなく、球がよく走っていたのを覚えています。4回裏を投げ終わり、次の回の先頭打者として打席に立ちました。ピッチャーは西本聖。なんでもないセカンドゴロを打つたら、名手・篠塚和典がめずらしくそれをエラーしたんですね。私は1塁に残り、次の打者・高木豊がレフト線にヒット。レフトを守っていたのが、怪我から復帰したばかりの吉村禎章でした。1

1992年、球団は翌年から横浜ベイスターズと名前を変えることが決まり、大洋ホエールズ最後の試合が私の引退試合となりました。

引退後はTBSで野球解説者に。やったことのないドラマに出演したり、その後横浜ベイスターズのコーチになるまでは結構大変でした。女房は苦労したと思います。

少し余裕ができるころ、女房の希望で鎌倉に移り住むことになりました。こうして鎌倉市にご縁ができ、観光協会からスカウトされたのです。

「何もしなくていいから」「座っているだけでいいから」「解説の仕事や野球塾の仕事があつたら行つてもいいから」などと言われてはいましたが、実際は座つていればいいものではありませんでした。

観光協会の仕事は、イベントや事業を行うたびに、企業やお店を回つて協賛をお願いしなくてはいけません。あまり何度もお願いに行くので、私の顔を見ると、お金はないよと先

に言われてしまつたり…。観光協会の仕事を引き受けてから5年半になります。始めは企画書も持たずに飛び込みでお願いに行き、お叱りを受けたこともありました。

鎌倉はJRしか鉄道が通っていないのに、それまではJR東日本とはほとんど接点がなかつたんです。私が観光協会の専務理事になつたことから、熱烈な大洋ファンとおつしやるJR東日本の常務さんとお会いする機会に恵まれました。私の知らない細かなことまで良くご存じの方でかなりの野球通です。途中からはすべて野球の話でした。

以来、JR東日本さんとはすっかり仲良くなり、鎌倉の観光ボスターの撮影での吉永小百合さんが鎌倉八幡宮にいらっしゃいました。私が野球選手だったことが、少しはお役に立てたのかもしません。

### 鎌倉を盛り上げたい 野球にも恩返しを

昨年は2300万人の方が鎌倉を訪れました。しかし、観光客を目当てにしている店と、行政、普通の生活をしている住人との間には微妙な温

度差が生じているようです。

昔から鎌倉に住んでいる方たちにしてみれば、観光客が集まり過ぎるところ、騒音が気になる、町が汚れて困るなどの不満がある。人が訪れることに對して行政側の準備ができるないのが実情です。人が集まつても、お弁当や飲み物持参であれば、鎌倉 자체に得られるメリットは少ないと言う人もいます。例えば、トイレの数が少ないこと、小学生が遠足で鎌倉を訪れても雨が降った時に食事をする場所がないことなど、観光都市を目指すならまだ足りないことがあります。

駅前から鶴岡八幡宮へと続く小町通りはいつも大勢の人で賑わっています。一攫千金を狙うような企業が入つてきても3カ月ともちません。その一方、もともと鎌倉にあつた店は、こじんまりと、ひそやかに、地元のお客さん相手に長続きしています。

昨年、鎌倉が世界遺産に登録かと話題になりました。結局は辞退したのですが、それは正解だったと思います。海外から観光客が訪れても、まだそれに対応できる整備ができていません。例えば、通貨の両替をする

場所がなく、クレジットカード決済ができる店も少ない。観光協会としては、せめて電子マネーが使えるよう

にと各店舗にお願いして回っていますが、その小さな機械をお店に置くのは、それ難しいのが現状です。

今、世界中から観光客が集まつてゐる京都では、観光協会、行政、商工会、JRなどすべてが一つになり、努力を重ねてきたと聞いています。鎌倉が今後国際観光都市として盛り上がることができるのか。それとも衰退していくてしまうのか。それぞれの専門分野の方々が危惧しておられます。

中には、あの遠藤が頼むのなら何か協力すると言つてくださる方もいれば、そうでない方もいます。歴史のある古い土地柄だけに、難しいこともたくさんあるんです。個人商店がほとんどですから、金銭的な協力はなかなかお願いしづらいのも現実です。それでも、鎌倉市の住人として、何とか鎌倉を盛り上げていきたいと努力を続けているところです。

私がプロ野球選手として投げていた時は、各球団に名球会入りを果たしました。しかし、観光客を目当てにしている店と、行政、普通の生活をしている住人との間には微妙な温

度差が生じているようです。これまで幸せな時代だったと思つています。

正直に申しますと、もう一度野球の夢をもちながら日々暮らしています。

本日、私の話に耳を傾けていただいた皆さんと出会えたこと。これも一つのご縁です。これからも、一つひとつのお出会いを大切にしていきたいと思っています。

### 【遠藤一彦さんプロフィール】

1955年4月19日 福島県生まれ。法石川高校から東海大学へ。78年ドラフト3位で横浜大洋ホエールズ入団。「主なタイトル」…沢村賞1回・最多勝2回・最優秀投手1回・ベストナイン1回・カムバック賞。92年引退し、TBS野球解説者に。97年横浜ベイスターズ投手コーチ。2003年退団。04年よりJAAインストラクター・TBS系CS解説・tvc野球解説・少年野球教室等で活躍。09年鎌倉市観光協会専務理事に就任。